

令和2年12月22日 2学期終業式講話

今日で2学期が終わります。また、令和2年という年も、本日を入れて、残すところ10日となりました。みなさん、今年はどうな1年でしたか。やはり、私は新型コロナウイルス感染症の拡大とその対応に追われる社会の中で、鬱々とした気分の晴れない日々が多かったと感じています。

ただ、何か肯定的にとらえるなら、「例年どおりとはいかない」ということが私たちに本気で「考える」という姿勢を求めてきたことがあげられます。今年度の江津高校学園祭も、「鷲（しゅう）～仲間とともに獲物を残さずつかみとれ～」というテーマのもと、合唱やいくつかの体育祭種目を廃止し、代わりに動画制作などの新企画を導入しました。また、観客は制限し、時間も短縮され、感染防止対策も行うなど、準備は大変なものとなりました。しかし、みなさんは情熱・友情・団結・感動・思い出…など、テーマに掲げたとおり、今年度もしっかりと「逃さず」つかみ取ることができました。例年どおりとはいかないからこそ、しっかりと「考える」ことに、みなさんも向かったと思います。

先日、期末試験中の午後の時間を使って、進路検討会が行われました。みなさんの進路希望について1年生から3年生まで、一人ひとりの希望状況を先生方で共有し、みなさんの希望を叶えるためにはどのような指導が必要なのか、今の段階でみなさんの希望が実現する可能性はどれくらいあるのかなど、検討していきます。3年生の検討が終わった後でした。

「3年生になっても考え方が表面的でまだまだ浅い…」「自分の考えを論理的に表現する力が不足している…」「受験直前の小論文指導や面接指導が難しい…」そんな意見が、先生方から聞かれました。みなさんは、これまで懸命に授業や課題に取り組み、頑張ってきたはずです。でも、全国の受験生と競争するレベルで評価すると、まだまだ足りていないと言うのです。では、どうしたら、もっと深い考え方や論理的な表現ができるようになるのでしょうか。

しばらくして私は、本屋で齋藤孝さんの『思考中毒になる！』という本を見つけました。齋藤孝さんと言えば、フジテレビ金曜夜11時からの「全力！脱力タイムズ」といったバラエティ番組やTBS系列土曜夜10時からの「情報7days ニュースキャスター」に出演しているので、知っている人も多いと思います。明治大学文学部教授で『声に出して読みたい日本語』など多くの著書を世に出している教育学者です。新書本だから、短時間で読めます。私は迷うことなく購入し、2日間で読みきりました。今日は、その中から特に肝となるところをみなさんにお伝えし、一年の終わりにこの「考える」ということについて考えてもらいたいと思います。

齋藤さんは先の見えない不確実な世の中でイノベーションを起こせる人は「考え続ける人」と言っています。「どうすればお客さんが喜んでくれるか」、「どうすれば効率をもっとアップするのか」、こういった課題に常に向き合いながらアウトプットされるものの中にイノベティブな商品やサービスが登場すると言っています。AI（人工知能）が登場

しても、AI 自体が課題意識や感覚を持ってないので、人間が「考える」という必要性がなくなることはないのです。そして、「考え続ける」人になるために、次のような習慣を身につけることを教えてくれています。

1 すべてを「自分ごと」にする。

齋藤さんは「考える」ことは「自分ごと」にすることに他ならないと言っています。人は「自分ごと」だからこそ懸命に考えるからです。

2 「読む・書く・話す」で考え続ける。

「読む」という情報の入手は課題を自分ごとにする第一歩です。また、ただ読むのではなく、重要なところはどこか、自分にとって面白いところはどこか、などを意識して読むことがより考えることにつながると言っています。

次に「話すこと」。「話す」スピードは「考える」スピードに比例するそうです。ですから、「話す」訓練を積むことは「考える」スピードを高めることになります。

そして「書く」こと。「書く」ことは「考える」ことの究極の行為で、文字として残り、いつ誰が読んでも矛盾のない文章を書くことは、それ相当の思考が働かないとできないと言っています。3年生のみなさんの中にも志望理由書や自己推薦書、小論文などを書いてみて、人が読んでわかる文章を書くことがいかに難しいかを痛感した人も多いと思います。それだけ、書くことは「考える」必要に迫られるのです。

ですから、自分の意見を人に聞いてもらい、文にしてみるというトレーニングを積むことがとても大切です。

3 短い締め切りを設定する。

ある精神科医が、人が1つのテーマを「考える」ことに集中できる時間は長くても5分だと述べていることを参考に、齋藤さんは大学で教えている学生には1分で考えて意見を言ってもらって授業を行っているそうです。よくボーッと「考えごと」をしていると言う人がいますが、その頭の中は何も考えていないか、同じことの繰り返し＝堂々巡りで、こうした状態は心の健康を保つためにはある程度必要なことではあるけれど、価値を生み出す「考える」という行為ではないと言っています。「心配ごと」と同じで、短い時間でキリをつけることが大事であると言っています。

考えることは本来楽しく、わくわくするものでなければなりません。ですから、考えて出てきたアイデアはくだらないと決めつけずに、メモに残したりして、すべてを記録しておくことも大切なのだそうです。

以上、「考える」ということについて、齋藤孝さんの著書から、みなさんにご紹介しました。年末年始をどう過ごせばみなさんにとって幸せとなるのか、世界にとって幸せとなるのか、「読む・書く・話す」で「考え」て2021年を迎えてほしいと思います。

最後に、みなさんへお願いです。みなさんには夏以降、臨時休業などの事態に備えてオンライン学習ができるよう Google Classroom への参加登録をお願いしてきました。しかし、登録状況はまだまだ進んでいないようです。これではいざというときのオンラインでの

学習ができません。せつかく、国民や島根県民の方々の税金でシステムが整えられても、利用できなければ無駄になってしまいます。私の「校長クラス」も未だ55人しか登録されていません、残念です。ですので、私から課題を出します。来年1月1日に Google Classroom の校長クラスのみなさんに、簡単な課題を配信しますので、受信されたみなさんは、それにお応えください。回答、提出いただいたみなさんには私から、心ばかりではありますがプレゼントを3学期のうちに差し上げます。登録よろしくお願ひします。

以上で私の講話を終わります。